

港湾振興便り



2014. 6

第86号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ —農業特区で農産物輸出促進—
～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

2 トピック

●留萌港から韓国へトドマツ材を初輸出しました
留萌市 経済港湾課

●みなと見学会 ～こまつしまビジターハーバーフェスティバル～
四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所

●太田国土交通大臣 撫養港海岸整備事業を視察
四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所

●那覇クルーズターミナル供用開始
那覇港管理組合 建設課

●「湊まち新潟歴史ウォーク 2014」第1回 ～湊まち新潟の歴史概説～ が開催されました
北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所

●北九州港オリエンテーションを開催
北九州港振興協会

3 お知らせ

◇小松島港まつり 2014

◇横須賀うみかぜカーニバル 2014

*:

1 ポートエッセイ ー農業特区で農産物輸出促進ー

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

安倍政権の成長戦略の柱である「国家戦略特区」に6地区が指定された。新潟市はニューフ
ードバレー、環日本海ゲートウェイ、簇業（そうぎょう）の3分野で新潟経済同友会と共同
提案していたが、「大規模農業の改革拠点」として位置づけられた。

基本的には農業と農業関連の雇用の部分で規制緩和などが認められた。農用区域内での
調理や料理提供が可能となる農家レストランや、農業生産法人の構成員に農作業に従事す
る方が一人いれば良いとする規制緩和が実施される。

環日本海ゲートウェイ特区が認められなかったのは残念だが、本市が克服すべき政策課題
に「農産物及び食品の輸出促進」が明示された。これを機に新潟港や新潟空港からの農産物・
食品の輸出を拡大していきたい。

幸い、昨年の新潟港の輸出実績を見ると、空コンテナが減り、コメや清酒などの輸出が増
加している。新潟の農機具メーカーが香港に精米工場をつくり、摺りたてのコシヒカリなど
を提供するシステムも好評だ。

農業特区に指定されたことで新しい動きも出ている。香港貿易発展局の日本代表が新潟を
訪れ、「農業特区に選ばれた新潟市の農産物をもっと香港に輸出して欲しい。できれば新潟
市が事務局になって、新潟県や近県の良い農産物をリストアップし、香港に持ってきて欲し
い。」との申し出をいただいた。これは特区本体とは関係がないことであるが、特区効果の
一つであることは間違いない。

今後、農業特区は国の区域会議が設置され、区域計画に盛り込まれたものが規制緩和の対
象となる。国は「実践の裏打ちがあるものなら、さらなる規制緩和を行う。」という方針を
打ち出しているので、農業特区をより充実させて、農産物の輸出増加に結びつけ、港湾や空
港活性化につなげていきたい。新潟の取り組みを成功させ、全国に波及させていきたい。

*:

2 トピック

*:

●留萌港から韓国へトドマツ材を初輸出しました

留萌市 経済港湾課

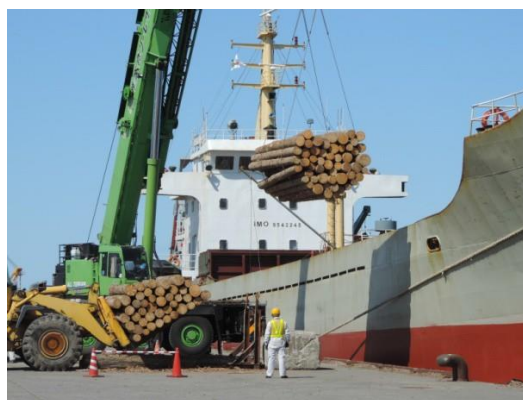
6月2日(月)に留萌管内産等のトドマツ材が留萌港から韓国群山港へ向け初輸出されま
した。輸出したのはトドマツの間伐材で一般材と合板相当の約1,850m³(丸太8千~9千
本)で、間伐材の有効活用や物流コスト削減に向け新市場を開拓するものです。

この日は留萌流域森林・林業活性化協議会が、初輸出を祝うセレモニーを開催し、林
業関係者約70人が念願だった初輸出の実現を祝いました。

同協議会によると年2、3回の輸出を目標としており、次回は秋になる見通しとなっております。



トドマツ材の輸出を記念して行われたセレモニー



貨物船に積み込まれるトドマツ材

●みなと見学会 ～こまつしまビジターハーバーフェスティバル～

四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所

平成26年5月25日（日）、徳島小松島港において「NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」が主催する「こまつしまビジターハーバーフェスティバル」が開催されました。会場では、ハーバーライブや海上保安庁による救助訓練、保育士によるヒーローショーなど様々な催しが実施される中、当事務所は後援行事として港湾業務艇「しまかぜ」による“みなと見学会”を実施いたしました。みなと見学会については、3便×各定員15名で参加者を募集したところ受付開始30分ほどですべての便が満員になるほど盛況となり、参加された方々には普段なかなか見る機会のない“海から見る徳島小松島港”を楽しんでいただけたのではないかと思います。

少しでも多くの方に港への興味を持ってもらえるよう、今後も港に関連したイベントを実施していきたいと考えています。



出港する港湾業務艇「しまかぜ」



船上より小松島港を見学する参加者

●太田国土交通大臣 撫養港海岸整備事業を視察

四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所

平成26年5月24日（土）、徳島県鳴門市で開催された「みどりの愛護のつどい」に出席された太田国土交通大臣が、撫養港海岸整備事業の工事現場を視察されました。

当事業は東南海・南海地震による津波から背後地域を守るため、老朽化した既設堤防の地盤改良や嵩上げ等を行うものです。大臣は、四国地方整備局次長、小松島港湾・空港整備事務所長から事業概要説明を受けた後、堤防の嵩上げ高さや現地で採用している地盤改良工法について質問される等、熱心に現場を視察されていました。

当事務所では「国民の安全・安心の確保」に向け、徳島県、鳴門市と連携し、早期の完成を目指して整備を進めていきたいと思っています。



撫養港海岸整備事業の工事現場を視察する太田大臣

●那覇クルーズターミナル供用開始

那覇港管理組合 建設課

平成26年4月1日（火）、那覇クルーズターミナルの供用開始を致しました。那覇クルーズターミナルは、沖縄の海の玄関口として重要な施設であり、沖縄観光の飛躍に寄与することが期待されております。これからはより速やかな審査手続きが可能となり、観光やショッピングの時間が増えるという満足度アップにつながることを期待できます。

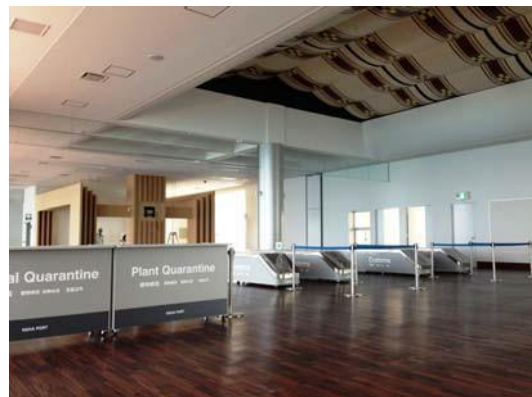
また、クルーズ船の就航がない日はホールの貸出しを行っており、海を存分に楽しめるターミナルとして各種イベントにご利用頂けます。



海上から見た那覇クルーズターミナル



エントランスホール



出入国審査場

【施設概要】施設名称：那覇クルーズターミナル

延べ面積：4468.273 m²

構造：鉄骨造 2階建て

施設用途：待合所、入国等審査場兼多目的ホールほか

入国審査ブース：16台（可動式）

税関検査台：4台（可動式）

CIQホール面積：約1,200 m²

●「湊まち新潟歴史ウォーク 2014」第1回
～湊まち新潟の歴史概説～ が開催されました

北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所

平成26年5月24日、「湊まち新潟歴史ウォーク2014」の第1回～湊まち新潟の歴史概説～が開催されました。このイベントは、2019年に開港150周年を迎える新潟港の湊まちづくりに参加者からの提言を活かしていくことを目的に、「*湊まち新潟歴史ウォーク実行委員会」が平成20年より毎年開催しています。今年も11月まで全7回実施します。

当日は爽やかな天気恵まれ、9時30分、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）に集合した参加者とスタッフ総勢51名が、班別に色分けされた名札を受け取り、NPO法人新潟みなとクラブの石井実行委員長挨拶で幕を開けました。続いて班別に別れ、参加した動機やウォークに期待することを各自が自己紹介を含めて話し合いました。その後「みなとぴあ」に入り、ボランティアガイドによる新潟の歴史の説明を聞きながら施設内を見学しました。施設見学後、ウォーク参加経験者の実行委員を班長に、みなとオアシスに登録されている「信濃川左岸緑地（みなと・さがん）」から「朱鷺メッセ」までの約1.6kmを、係留されている船や、川辺の町並みを眺めながら歩き、柳都大橋を渡り信濃川から新潟西港を望みました。朱鷺メッセの展望室からは、説明スタッフとして各班に参加したNPO法人新潟みなとクラブ及び当事務所職員が、新潟西港を中心に港の施設などについて説明し、参加者からの質問に答え、12時に解散となりました。

※ウォークの円滑な運営と、2019年に開港150周年を迎える新潟港と湊まち新潟の発展に寄与することを目的にNPO法人、当事務所と一般の方々で設立しました。



開会挨拶



「みなと・さがん」散策



朱鷺メッセ展望室にて

●北九州港オリエンテーションを開催

北九州港振興協会

4月22日、23日に北九州港オリエンテーションを門司港ホテルで開催しました。会員企業の新入社員の皆さん110人が講義と現地視察で港湾の基礎を学びました。

この行事は、北九州港振興協会が主催して平成5年から開催しているもので、今年で22回目。講義では国や市の役割、海運業と港運業の基礎などをベテラン講師が解説しました。

午後からはバスと船で現地視察しました。陸上コースでは、阪九フェリーの船内や太刀浦コンテナターミナル、旧大連航路上屋を見学。普段は入れないフェリーの操舵室や、コンテナターミナルでの迫力ある荷役の様子に参加者の方たちは驚きの様子でした。また海上コースでは、船から西海岸ふ頭や日明地区、洞海湾、ひびきコンテナターミナルなどを視察。海からみる工場群や大型船の航行などを楽しみながら視察しました。

